

多様性の時代のキャリア形成と異文化コミュニケーション

— 外国に出自を持つ児童・若者に対する支援を考える —

Career Development and Intercultural Communication in the Age of Diversity

現代は、多様性の時代ともいえます。社会に多様性をもたらしている要因のひとつは、様々な目的をもって国境を越える人々の移動であり、今日、この現象は活性化して止む気配をみせません。国境を越えて移動し、母国とは異なる文化圏で生きる人々、特に若い世代にとって、いかなるキャリア形成上の課題があるのでしょうか。どのような異文化コミュニケーションが、わたしたちの対話と相互理解を促すのでしょうか。そして多様性は、ホスト社会にいかなる変革を要請するのでしょうか。本フォーラムでは、外国に出自を持つ児童や若者に対する教育やキャリア等の支援に関わってきた実践家と専門家を招き、多様性の時代のキャリア形成と異文化コミュニケーションについての理解を深めます。

日時 2017年12月5日(火曜日) 15時～

費用 フォーラム参加費 無料

場所 筑波大学人文社会学系棟A316

懇親会参加費 1000円(学生500円)

プログラム

15時～15時15分

開会の挨拶と趣旨説明

明石 純一(筑波大学人文社会学系准教授)

15時15分～17時15分

パネルセッション1

多様性の時代のキャリア形成と異文化コミュニケーション

井上 里鶴(茨城県日本語教育アドバイザー)

藤井 豊美(米国NLP協会認定トレーナー)

鈴木 華子(立命館大学総合心理学部准教授)

★司会：許 明子(筑波大学人文社会学系准教授)

(休憩15分間)

17時30分～19時30分

パネルセッション2

外国に出自を持つ児童と若者に対する職業教育

森 和重(日伯経済文化協会(ANBEC)理事/日本コロンビア協会理事長)

栗田 政彦(日伯経済文化協会(ANBEC)専務理事)

中嶋 ひろ(日伯経済文化協会(ANBEC)1級キャリア・コンサルティング技能士)

★司会：ウラノ・エジソン(筑波大学人文社会学系准教授)

総括と閉会の挨拶

明石 純一

翌日10時～12時 ※場所はTBA

学生パネルセッション

- 馬文甜「中国から日本への留学とそのキャリア戦略」(筑波大学人文社会学系科学研究科博士後期課程)
- 村雲和美「在日インドネシア人の看護・介護従事者と日本社会」(同上)
- アナミカスルタナ「在日バンングラデシュコミュニティをめぐる課題と挑戦」(同上)
- 角谷敦史「日本の外国人支援組織に関する一考察」(同上)
- 佐々木優香「日独比較からみる移民の社会統合」(同上)

主催：2017年度筑波大学社会貢献プロジェクト「定住外国人児童に対する『職育』プログラム」

連絡先：明石 純一(akashi.junichi.fu@u.tsukuba.ac.jp)

登壇者プロフィール

■ 明石 純一

筑波大学教員。博士(国際政治経済学)。社会科学、主に政治学、政策研究、国際関係論の立場から、アジア諸国・地域における国際人口移動や移民政策の過程や帰結に関して研究調査を行っている。現在は法務省の難民審査参与員及び同出入国管理政策懇談会委員を務める。移民政策学会理事。

■ 井上 里鶴

茨城県日本語教育アドバイザー。博士(国際日本研究)。専門は日本語教育、特にサービス・ラーニング。現在は厚生労働省委託事業である外国人就労・定着支援研修の日本語主任を務めるほか、麗澤大学及び早稲田大学において教育実践に従事している。

■ ウラノエジソン

筑波大学教員。博士(経済学)。専門は労働社会学。国際共同研究や参加型アクションリサーチなどの研究手法を通じて、移住者の定住化に伴う社会参加の必要性と可能性を探求している。現在は外務省にある中南米日系社会との連携に関する有識者懇談会の委員を務める。

■ 栗田 政彦

日伯経済文化協会(ANBEC)専務理事。日本人のブラジル移民史研究。永住化の進む在日ブラジル人コミュニティの課題としてその子弟(移民の子供)教育・職育を取り上げる。支援ではなく地域や市民の自身の問題としての取り組む活動を提唱している。教育・職育へのボランティア諸活動の茨城モデル構築を探求。

■ 鈴木 華子

立命館大学教員。博士(医学)。臨床心理士。専門はカウンセリング心理学及び多文化間カウンセリング。現在は日本における留学生の予防的心理支援モデル構築の研究や、カナダ・フランス・イタリア等の共同研究者と共にメンタルヘルスやキャリアに関わる比較文化研究を行っている。

■ 中嶋 ひろ

日伯経済文化協会(ANBEC)職育コーディネーター。ポルトガル語通訳。ブラジル人学校および公立学校在籍の在日ブラジル人子弟の教育・職育課題解決へのボランティア活動に取り組む。前者に対して学力向上のため無料学習塾運営ならびに後者には職業観育成のための特別授業や相談会の指導者として活動。

■ 藤井 豊美

米国NLP(神経言語プログラム)協会認定トレーナー。元ペトロbrasジャパン人事部長。企業での人事・人材育成開発に長年携わり、多様な社員の意欲・動機付けにも取り組む。在日ブラジル人生活支援の経験も含め、NLPの視点での青少年の生活・学習意欲向上のため研究を目指す。

■ 許 明子

筑波大学教員。博士(比較社会文化)。専門は日本語教育学、対照言語学、異文化コミュニケーション論。留学生に対する日本語教育を担当しつつ、日本語の文法的な特徴とコミュニケーション・スタイルに関するテーマを中心に、日本語と韓国語の比較研究などを行なっている。

■ 森 和重

日本コロンビア協会理事長。日伯経済文化協会(ANBEC)理事。長年に渡り、全国のブラジル人学校経営支援や生徒への三井物産奨学金プログラム実施責任者。三井物産カエルプログラムを主導。ブラジル人集住地の公立学校在籍子弟教育に関する保護者の在り方、幼児教育、発達障害児の課題等にも取り組む。